

## 2024年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年1月12日

上場会社名 フェスタリアホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 2736 URL https://www.festaria.jp/  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 貞松 隆弥  
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 姉川 清司 (TEL) 03-6633-6869  
四半期報告書提出予定日 2024年1月15日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年8月期第1四半期の連結業績(2023年9月1日~2023年11月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第1四半期	1,904	0.1	△177	—	△176	—	△157	—
2023年8月期第1四半期	1,901	△0.7	△65	—	△75	—	△66	—

(注) 包括利益 2024年8月期第1四半期 △151百万円(—%) 2023年8月期第1四半期 6百万円(△66.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第1四半期	△133.57	—
2023年8月期第1四半期	△56.49	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第1四半期	7,324	1,233	16.3
2023年8月期	6,718	1,408	20.4

(参考) 自己資本 2024年8月期第1四半期 1,195百万円 2023年8月期 1,370百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	—	0	—	20.00	20.00
2024年8月期	—	—	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	0	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,500	2.9	180	71.4	150	101.9	90	85.0	76.29
通期	9,000	3.9	300	55.2	240	50.1	130	124.9	110.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年8月期1Q	1,208,300株	2023年8月期	1,208,000株
2024年8月期1Q	25,983株	2023年8月期	25,983株
2024年8月期1Q	1,182,063株	2023年8月期1Q	1,174,648株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあつての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2023年9月1日～2023年11月30日）におけるわが国経済は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化を反映し、緩やかな回復の動きがみられたものの、原材料・エネルギー価格の高騰や世界的な金融引き締めによる景気の下押しリスクが懸念されるなか、国際情勢が一段と不安定化するなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する宝飾業界は、インバウンド需要の回復もあり、引き続き高額品の売れ行きが堅調であった一方で、物価上昇による実質賃金の低下を背景とした生活防衛意識の高まりに加え、原材料費の高騰や慢性的な人材不足など、総じて厳しい事業環境が続きました。

このような環境のなか、当社グループは、引き続き「強みの進化」と「ビジネスモデルの再構築」を中期の基本方針に掲げ、当社の強みを進化させることで付加価値の高い商品やサービスを継続的に創出し、持続的な成長を可能とする経営基盤の確立を目指しております。

主な取り組みとして、進行する消費の二極化を踏まえ、富裕層を中心に新たな客層へのアプローチを強化するなど、ブランド価値のさらなる向上を見据えた対応を進めました。その一環として、エルメス、ルイ・ヴィトン等、数々のハイブランドを手掛け日本を代表するアーティストである河原シンスケ氏との協業により、2023年10月6日から伊勢丹新宿本店に「プチウサギ・シンスケカワハラ・フォーフェスタリア」と題した期間限定ショップをオープンしました。ジャポニスムなショップ空間を演出し、商品ラインナップにはフェスタリア初のジェンダーレスラインの先駆けとなるコインジュエリーを取り揃えた当ショップは、連日多くのお客様、セレブリティの皆様にご来場いただき、大盛況となりました。さらに、2023年10月11日からは伊勢丹新宿本店の海外メゾンを中心としたラグジュアリーゾーンの一画に当社の主力商品である“Wish upon a star®”オンリーショップの出店が実現するなど、ブランド価値向上に資する取り組みが進展しました。

また、DX（Digital Transformation）による競争優位性の確立に向けた取り組みでは、オーダーメイド施策の一環としてジュエリーの3Dデジタルカスタマイズシステムの本格展開を進めたほか、OMO（Online Merges with Offline）戦略をサポートするCRM（Customer Relationship Management）システム「festaria Members Club」をオンラインショップに先行導入したことに加え、全国の店舗で会員登録の促進を図る運用を確立するため、トライアル店舗への先行導入も実施いたしました。さらに、業務標準化の推進においては、当社の強みである接客について、特にその育成手法に焦点を当てて標準化を実施し、文書化を進めました。また、バックエンドの最適化を図るため、基幹システムの刷新を柱としたシステム基盤の整備を進めました。

海外事業については、台湾子会社の台湾貞松股份有限公司（日本名：台湾貞松株）は、引き続きアジアマーケットの重要拠点として、フェスタリアグループの強みに立脚したビジネス展開を進め、収益性の向上を図りつつ、さらなるブランド力の強化を目指しました。

ベトナム子会社D&Q JEWELLRY Co., Ltd（日本名：ディーアンドキュー ジュエリー）については、自社ブランドのみならず、OEM生産等を検討し、製造体制の見直しや生産合理化によるコスト競争力の向上を目指すとともに、品質のさらなる向上や工程安定化を確保することでSPA企業として最適な製造体制の確立を推進しました。

これらの取り組みにより、売上高につきましては、ブライダルジュエリーが低調に推移したものの、ファッションジュエリーの販売が堅調に推移し、ブライダルの落ち込みをカバーしたため、前年同四半期比では同水準となりました。

売上総利益は、金価格が期間平均で18.1%増加するなど、原材料価格の高騰が売上原価を圧迫したことから、売上総利益率が前年同四半期比で0.4ポイント低下したため、前年同四半期比5百万円（0.5%減）減少しました。

費用面に関しては、人材の確保、定着に向けた対応を強化したことから人件費が大きく増加したことに加え、DX推進に伴う外注費やプロモーションコストを継続的に投下したため、販売費及び一般管理費は前年同四半期比106百万円（8.3%増）増加しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高1,904百万円（前年同四半期比0.1%増）、営業損失177百万円（前年同四半期営業損失65百万円）、経常損失176百万円（前年同四半期経常損失75百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失157百万円（前年同四半期純損失66百万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の資産の部は、前連結会計年度に比べて606百万円（9.0%）増加して、7,324百万円と

なりました。これは主に、現金及び預金が124百万円、受取手形及び売掛金が75百万円、商品及び製品が373百万円、繰延税金資産が20百万円増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間の負債の部は、前連結会計年度に比べて781百万円(14.7%)増加して、6,091百万円となりました。これは主に、賞与引当金が39百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が85百万円、借入金が603百万円、未払金及び未払費用が78百万円、前受金が55百万円増加したことによるものであります。

当第1四半期連結会計期間の純資産の部は、前連結会計年度に比べ175百万円(12.4%)減少して、1,233百万円となりました。これは主に、利益剰余金が181百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は16.3%となり、前連結会計年度末に比べ4.1ポイント減少いたしました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期決算発表時(2023年10月13日)の予想を変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	966,459	1,091,243
売掛金	774,681	849,699
商品及び製品	2,718,008	3,091,080
原材料及び貯蔵品	688,881	625,157
その他	104,910	208,646
貸倒引当金	△514	△528
流動資産合計	5,252,427	5,865,298
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,095,591	1,093,556
減価償却累計額	△750,394	△760,673
減損損失累計額	△107,023	△106,323
建物及び構築物(純額)	238,172	226,559
機械装置及び運搬具	135,650	138,113
減価償却累計額	△122,950	△124,725
機械装置及び運搬具(純額)	12,699	13,388
工具、器具及び備品	236,198	237,448
減価償却累計額	△199,954	△199,610
減損損失累計額	△2,362	△2,362
工具、器具及び備品(純額)	33,881	35,474
土地	30,000	30,000
リース資産	438,318	435,637
減価償却累計額	△353,456	△358,782
減損損失累計額	△23,493	△23,493
リース資産(純額)	61,368	53,361
有形固定資産合計	376,122	358,783
無形固定資産	143,243	133,472
投資その他の資産		
投資有価証券	89,263	92,758
繰延税金資産	325,521	346,403
差入保証金	399,172	395,707
その他	141,027	140,894
貸倒引当金	△8,477	△8,699
投資その他の資産合計	946,507	967,065
固定資産合計	1,465,873	1,459,321
資産合計	6,718,300	7,324,620

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	557,992	643,304
短期借入金	1,430,000	2,130,000
1年内返済予定の長期借入金	323,231	289,034
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払金及び未払費用	451,768	530,360
前受金	259,860	314,887
リース債務	26,818	20,748
賞与引当金	92,068	52,090
その他	43,246	69,254
流動負債合計	3,204,986	4,069,679
固定負債		
社債	70,000	60,000
長期借入金	1,609,951	1,547,839
リース債務	27,904	23,775
退職給付に係る負債	301,441	303,883
資産除去債務	9,165	9,171
その他	86,312	77,043
固定負債合計	2,104,776	2,021,713
負債合計	5,309,762	6,091,393
純資産の部		
株主資本		
資本金	811,422	811,572
資本剰余金	618,731	618,881
利益剰余金	△136,404	△317,936
自己株式	△34,202	△34,202
株主資本合計	1,259,548	1,078,316
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,152	7,577
為替換算調整勘定	100,361	105,295
退職給付に係る調整累計額	5,335	4,001
その他の包括利益累計額合計	110,850	116,874
新株予約権	38,139	38,035
純資産合計	1,408,537	1,233,226
負債純資産合計	6,718,300	7,324,620

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)
売上高	1,901,645	1,904,058
売上原価	685,903	694,002
売上総利益	1,215,742	1,210,056
販売費及び一般管理費	1,281,132	1,387,477
営業損失(△)	△65,390	△177,420
営業外収益		
受取利息	115	478
為替差益	17,415	22,736
その他	66	184
営業外収益合計	17,597	23,399
営業外費用		
支払利息	20,050	18,973
社債利息	—	227
その他	7,627	3,255
営業外費用合計	27,678	22,456
経常損失(△)	△75,470	△176,477
税金等調整前四半期純損失(△)	△75,470	△176,477
法人税、住民税及び事業税	3,030	2,661
法人税等調整額	△12,144	△21,247
法人税等合計	△9,114	△18,586
四半期純損失(△)	△66,356	△157,891
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△66,356	△157,891



四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2022年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)
四半期純損失(△)	△66,356	△157,891
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,904	2,424
為替換算調整勘定	74,627	4,933
退職給付に係る調整額	462	△1,333
その他の包括利益合計	73,185	6,024
四半期包括利益	6,829	△151,867
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,829	△151,867
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。